

穴次は阿那都藝と讀り○祭神猿田彦命、注○古市村に在す、大和志同、今穴栗明神と稱す、  
 上田百木云、舊訓アナツキアナフキアネフキなどあり、共に誤なり、穴昨是なり、延暦七年  
 八月對馬守正六位上穴昨皆麻呂賜姓奏忌寸、伴信友云、頃阿自經神明帳に、笛吹大明神  
 とあるは當社か、又舊事紀建多乎利命笛連祖の條齋頭に、神名帳云大和國添上郡笛吹神社  
 とせるは據まれば、當社穴吹にフエフキなど、假字つける本もあるよりの疎漏なり、連風按  
 るに、日本紀、景行天皇五十五年二月壬辰、以彦狹島王拜東山道十五國都督、豐城命之  
 孫也、然到春日穴昨色、臥病而薨之、とあるを思へば穴昨なるべく、かつ穴栗明神と稱す  
 も、穴昨と語近けれど、諸本穴昨と書しを見ざれば改め難し、猶後勘をまつのみ、景行紀の  
 穴昨色は、奈良豆比古神社に山縁あり、又一説に、春日の末社穴栗社を、社記に穴次神也と  
 あるを以て、當社の事と思へるは違へり、こは古市村なるを正しかりける、當社を穴栗明  
 神といふは、春日の末社に祀りて後、其號の移りたるならん、又云、舊事紀の齋頭は論なく  
 誤也、笛吹明神の事は忍海郡葛木坐火雷神社の條見るべし、

和爾下神社

和爾は前に同じ、下は志母と訓べし、赤坂北古神社に對へて、下の字を加へしなるべし、○祭神和爾部氏祖神歟○一座櫻  
 本村に在す、今上治道天王と稱す、一座横田村に在す、下治道天王と稱す、大和志同、日本紀、  
 神武天皇己未年二月、和爾坂下有居勢祝者云々、  
 類社

若狹國三方郡和爾部神社の條見合すべし

氏人

日本紀雄略天皇卷、春日和爾臣深目、

奈良豆比古神社

齋師

奈良豆比古は假字也○祭神明か也○奈良坂村に在す、大和今春日明神と稱す、例祭九月九  
 日、○舊事紀、國造下毛野國造、豐城命四世孫奈良別初定、賜國造、

太祝詞神社

大月次新嘗

太祝詞は布登乃止と訓べし○祭神天兒屋命、注○在所詳ならず  
 連冊云、當社は卜庭神に坐て、崇敬他に異りといへども、左京二條に祭て後は、自然輕畧に  
 なりて、終に在所も知れがたく成にけむ、

類社

京中左京二條坐神社の下見合すべし

高橋神社

高橋は多加波之と訓べし○祭神高橋朝臣祖歟○八條村蔭枕川東に在す、大和○日本紀、崇神  
 天皇八年四月乙卯、以高橋色人活日爲大神之嘗酒、○姓氏錄、左京高橋朝臣、阿倍朝臣  
 同祖、大稻與命之後也、景行天皇巡狩東國、供獻大蛤、于時天皇喜其奇美、賜姓膳臣、天  
 淳中原瀨真人、天十二年、改膳臣、賜高橋朝臣、同、攝津高橋臣、阿倍朝臣同祖、大湊命之

大和名所圖  
 會云祭神天  
 兒屋命在八  
 條村に春日  
 禰共するとい  
 云るはいか